

第四回館山市議定会定例会會議録（第四号）



一、昭和五十七年十二月十八日（土曜日）午前十時

二、館山市役所議場

出席議員 二十五名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
四番 横溝 功	五番 福原 勤
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一番 林 豊
一二番 栗原 一雄	一三番 近藤 好雄
一四番 渡辺 昭夫	一五番 伊藤 幸太郎
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
一九番 石井 輝久	二〇番 石井 武敏
二一番 吉田 勇治郎	二二番 藤田 益治
二三番 菊井 敏博	二四番 和田 一郎
二五番 五十嵐 昇	二六番 伊賀 多朗
二七番 石井 正	二八番 安澤 徳順
二九番 安西 益男	
欠席議員 一名	
三〇番 山口 康	

出席説明員

第三号に同じ

議事日程（第四号）

昭和五十七年十二月十八日午前十時開議

議案第四十九号

館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例について

議案第五十号 損害賠償の額の決定及び和解について

日程第一

議案第五十一号

て 損害賠償の額の決定及び和解について

議案第五十七号

昭和五十七年度館山市一般会計補正予算（第三号）

議案第五十二号

館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十三号

館山市ねたきり老人医療費支給条例の制定について

議案第五十四号

館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第二

議案第五十五号

老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十六号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十八号

昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

議案第六十一号

昭和五十七年度館山市老人保健特別会計予算

議案第五十九号

昭和五十七年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

日程第三

議案第六十号

昭和五十七年度館山市国民宿舍事業特別会計補正予算（第一号）

開 議 午前十時七分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十五名、これより第四回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第四十九号乃至議案第五十一号及び五十七号の議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに去る十二月十四日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君。御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 去る十二月十四日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました議案第四十九号乃至議案第五十一号及び五十七号につきましては、十六日総務委員会を開催し、慎重審査の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第五十号、議案第五十一号についてですが、市側の状況についてただしたところ、市の職員には負傷はなかった。市の車の損害額約四十三万円は全額保険で支払われた。事故発生後直ちに警察に通報、現場検証が行われた。警察の指摘では市職員の運転未熟が大きな原因であるとのことであった。なお、市職員は免許停止六十日、過料十万円の行政処分を受けたとの説明がありました。

そこで、市は相当数の公用車があることにかんがみ、今後事故のないよう職員の安全運転について徹底させるよう強く要望いたしました。

次に、議案第五十七号昭和五十七年度館山市一般会計補正予算第三号についてですが、館山市町内会連合協議会補助金が計上されているがこの内容と、関連して行政事務委託の内容を尋ねたところ、現在各地区に十五の連合会組織があり、連絡協調を図るという観点から連合協議会が結成されることになったので、市としてもそれぞれの地域での自治活動が円滑に行われるということから補助することにした。行政事務委託については広報、回覧、そのほか各課における市民への連絡事項等を委託しているとの答弁がありました。

次に、館山市社会福祉協議会補助金が計上されているが、同会において行われている貸付金の返済方法が、借りた翌月から返済していくということで厳し過ぎると思うが、弾力的に運用できないものかとただしたところ、同制度は現実に困っている方に貸し付けをする制度であり、返済方法について本来の趣旨に沿った運用ができるように配慮するとの答弁がありました。

次に、館山幼稚園用地造成工事請負費一千五百三十七万七千円の減額の内容について説明を求めたところ、減額の理由としては当初予算編成より土盛りの量が少なくなったということ、擁壁を間知ブロックからL字型のものに変更したこと及び競争入札の結果による残である旨の答弁がありました。

次に、豊津地区学習等供用施設建設の工事設計委託料と用地地質調査委託料三百三十万三千円が計上されているが、この内容について説明を求めたところ、現在館山地区には館山公民館があるが、年間一万六千人の方が利用しており、利用度がピークに達しているというようなことから、地区民から社会教育施設の要望が出てきた。そこで宮城ブルーの西側に約五百平米の規模で、内容としては学習室、会議室、実習室等六室の学習等供用施設を建設する予定であり、建設にあたっては防衛庁補助金約七千四百万円を考えているとの答弁がありました。

次に、東市民運動場体育館雨漏補修工事請負費について説明を求めたところ、温水プール機械室防水工事と東市民運動場体育館雨漏補修工事と合わせて二百七十一万三千円の補正をお願いしている。東市民運動場体育館雨漏補修工事については、一部補修したが、建設後十八年経過しており、残り部分についても雨漏りがあり、全面補修をする必要がある。なお、補修面積は五百三十平米との答弁がありました。

以上、本委員会に付託されました議案四件について、総務委員会における審査の概要を申し上げ、満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。通告はありませんでした。討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第四十九号乃至議案第五十一号及び議案第五十七号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議案第四十九号乃至議案第五十一号及び議案第五十七号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第五十二号乃至議案第五十六号及び議案第五十八号並びに議案第六十一号の各議案を一括して議題といたします。

## 文教民生委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに去る十二月十四日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長黒川平治君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長黒川平治君登壇）

○文教民生委員会委員長（黒川平治君） 文教民生委員会におきます審査の概要について御報告を申し上げます。

去る十四日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につき、十五日委員会を招集し、慎重に審査いたしました結果、議案第五十二号乃至議案第五十六号及び議案第五十八号については全員一致をもって、議案第六十一号については賛成多数をもって、いずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の内容について主なる事項を御報告申し上げます。

議案第五十二号館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、今回分館として利用する建物の状況及び従前の分館の活用方法、さらに管理運営の方針についてたどりましたところ、今回分館とするのは旧東小の校舎で、鉄筋二階建て、四百六十五平方メートルの建物、調理室、和室、学習室、事務室、会議室等々として利用する。従前の分館については内部の危険防止等配慮の上、一部改裝し、西岬幼稚園のプレイルームとして利用する。分館の管理運営については公設民営の立場から専任の職員は配置せず、地区に委託して地域の社会教育活動等の拠点として利用を図っていくとの説明がありました。

次に、議案第五十三号館山市ねたきり老人医療費支給条例の制定についてであります。支払いの方法について説明を求めましたところ、立てかえ払いをお願いし、本人からの請求によって市から現金を支給する予定であるとの説明がありました。

対象人員が限定されておることでもあり、市から通知による支払い方法につき検討されたいとの要望意見がありました。

また、老人保健法による一部負担が導入された中で、市独自による本制度は重要な意義を持つものであるとの賛成意見がありました。

次に、議案第五十四号館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。派遣対象範囲の拡大により奉仕員の勤務体制等について説明を求めたところ、希望調査の結果、新たに五世帯の派遣希望があり、現在の四名の正規職員と一名の臨時職員により実施したい、臨時職員については派遣希望時間内のみ勤務することとなり、給与については一時間当たり五百八十円を考えているとの説明がありました。

なお、奉仕員の身分等に関しては、規則で定めるとの説明が本会議でありましたが、運用上むずかしい問題もあると考えるので、十分配慮されていくようにとの要望意見がありました。

また、本制度は国の制度改正によるものであるが、いち早く施策として取り入れたことを評価するとの賛成意見がありました。

次に、議案第五十六号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてであります。関連として、老人保健法の施行に伴い保健事業が実施されることとなり、本市ですでに実施

されている検診事業等も今後なお拡大されるものと考えるので、受け入れ体制、施設整備を具体的に進められたいとの要望がありました。

次に、議案第五十八号昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第一号についてであります。老人保健拠出金の積算方法について説明を求めましたところ、具体的に拠出金額が示されていないのであくまでも推定で一カ月分の医療費の七〇〃相当額を拠出金に組みかえたものである。なお事務費については基金事務費拠出金と審査支払い手数料等であるとの説明がありました。

次に、議案第六十一号昭和五十七年度館山市老人保健特別会計であります。医療給付費の算出基礎についてたどりましたところ、当年度の一カ月当たり最高の医療費にさらに一割を加えた額を予算計上したとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告いたしました。なにとぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。文教民生委員会委員長報告を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で委員長長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑はありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第五十三号館山市ねたきり老人医療費支給条例の制定について、議案の第五十四号館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案の第五十五号老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について、以上三件についての賛成討論と議案第六十一号昭和五十七年度館山市老人保健特別会計予算に関する反対の討論をいたします。

第五十三号ねたきり老人医療費支給条例の制定についてであります。老人保健法の施行に伴い、いわゆる自治体の行い上乗せ福祉に対し、厚生省は廃止を含めた見直しを強く自治体に対して迫ってきております。山梨県では全ねたきり老人の医療費の一部負担を免除する方向で検討していたが、厚生省が強い難色を示していることから、その実施が困難となったと報じられています。こうした中で、六十歳以上のねたきり老人の医療費負担を救済しようとするこの条例は大変意義あるものだと考えます。弱者救済措置として市長においては国の干渉などに対して毅然とした姿勢をとるよう強く望むものであります。

また、この制度の運用にあたって、医療費一部負担の支払い方法など十分に検討し、この制度の趣旨が生かされるよう強く主張いたしました。賛成討論といたします。

議案の第五十四号館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第五十五号老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。ともに家庭奉仕員の派遣対象を拡大し、

所得税課税世帯についても有料で家庭奉仕員を派遣しようとするものであります。市内には多くの老人世帯や病弱な老人及び障害者を抱えた世帯が多くあります。これまでは所得の関係からその多くが家庭奉仕員の派遣対象とはなりませんでしたが、今回この条例により多くの老人世帯やあるいは障害者世帯などが新たな対象世帯となるものと思われまます。お年寄りや障害者の在宅福祉の重要性がこれまでたびたび強調されてまいりました。家庭奉仕員の派遣事業はそうした中でも一つの柱になるものと思われまます。

それだけに今後そうした需要の拡大に対し十分に対応できるだけの体制の整備が望まれます。そうした点で家庭奉仕員の身分について具体的に条例の中で明示していいことは問題だと考えまます。奉仕員の身分保証をはっきりさせるよう主張いたしまして、賛成討論いたします。

議案の第六十一号昭和五十七年度館山市老人保健特別会計予算についてであります。昭和五十七年度館山市老人保健特別会計は老人保健法に基づく国からの機関委任事務であります。そもそも老人保健法は老人医療に一部負担を導入した老人医療有料化法であり、老人福祉の後退をもたらすものだと考えまます。さらに、国はこの老人保健法との整合性を理由に、地方自治体の行い上乗せ福祉にまで見直しを迫るなどしてあります。老人保健法の柱の一つである四十代からの保健事業は事実上たな上げされようとしてあります。国は自治体が行い、単独で行い上乗せ福祉に干渉すべきではありません。また四十歳台からの保健事業の充実を速やかに図るべきであります。老人保健法の持つこうした問題点を指摘し、議案第六十一号の反対討論といたします。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 議案第六十一号について賛成の討論をいたします。

国勢調査による最も新しい昭和五十五年度の高齢者の占める割合は一一・一％、本市では一三・五％ときわめて高い比率になっております。これら高齢化社会の進展に伴う社会保障は、裏づけとなる財源の保証によって運営されており、支出の主なるものは医療給付と年金となっております。したがって、生涯設計の基盤として、社会保障は安定的かつ有効に機能しなければならないと基本認識をもつものでございます。

しかし、それを支えている財政状況はきわめて厳しく、人口の高齢化への移行はますます加速がつくものと予測され、将来の医療需要の増大を踏まえた長期的対策こそ重要な課題であります。

高齢化社会に伴う給付人数の増加は、逆に負担人口の減少で現役勤労者の負担は飛躍的に増大せざるを得ません。負担をする現役は家族の柱であり、生活費、教育費、ローン、租税負担を抱えており、従来の国保の老人に対する老人医療制度の現状維持では、給付が現行の水準で推移した場合、負担の増加は不可避免なものとなり、負担の限界が憂慮されます。

現在のように核家族社会の進行は、高齢者の単独世帯の急増を招き、今後の社会保障の果たす役割はさらに一段と重要なものと考えまます。



老人保健法の施行に伴い、独立した会計として老人保健特別会計の創設は、現実を直視した施策として時代の変化に対応した改革であると信じます。

以上の理由をもって賛成をいたします。

○議長（林 豊君） 以上で一二番議員君の討論を終わります。

他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第五十二号乃至議案第五十六号及び議案第五十八号について一括して採決いたします。

議案第五十二号乃至議案第五十六号及び議案第五十八号についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議案第五十二号乃至議案第五十六号及び議案第五十八号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第六十一号昭和五十七年度館山市老人保健特別会計予算について起立により採決いたします。

議案第六十一号についての委員長報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を

求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって議案第六十一号昭和五十七年度館山市老人保健特別会計予算は原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第三、議案第五十九号及び議案第六十号の各特別会計補正予算を一括して議題といたします。

### 建設経済委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに去る十二月十四日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長報告を求めます。

建設経済委員会委員長菊井敏博君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長菊井敏博君登壇）

○建設経済委員会委員長（菊井敏博君） 去る十二月十四日の本会議におきまして建設経済委員会に付託された議案第五十九号昭和五十七年度館山市水道事業特別会計補正予算、議案第六十号昭和五十七年度館山市国民宿舍事業特別会計補正予算について、十六日建設経済委員会を招集して、議案の慎重なる審査を行いました。結果は、全員一致原案どおり可決すべきであると決しました。

以下、審査の経過につきまして主なる事項を申し上げ、御報告

といいたします。

議案第五十九号につきまして、企業債償還金の減額についてその理由との質問に對しまして、当初財政上の余裕があり企業債の繰り上げ償還を計画したが、事業体の財政事情だけでは繰り上げ償還は認められないとのことで減額したとの答弁を受けました。

さらに、資金計画の中で前年度未収金、前年度未払金について補正額がゼロになっているがとの質問に、企業会計は発生主義の原則であり、三月三十一日現在で処理するのでいずれも翌年度に残っていくものであるとの答弁がありました。

議案第六十号につきましては、その被害状況について、示談書に後遺症についてうたっているか、賠償金については保険により全額でん補されるか等々の質問に對しまして、被害者大野さんについては入院三十日、通院六日、松田さんについては入院十三日、通院七十四日である、後遺症については議案に示したとおり「本件に關しての異議は申し立てない」ということで承諾を得ている、賠償金については自賠償と任意保険の両方により全額でん補される旨の答弁がありました。

以上が建設経済委員会に付託されました諸議案についての本委員会の審査の概要を申し上げます。なにとぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます、建設経済委員会委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。通告はありませんでした。討論はご

さいませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第五十九号及び議案第六十号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議案第五十九号及び議案第六十号の各会計補正予算はいずれも原案どおり可決されました。

## 継続審査について

○議長（林 豊君） この際、申し上げます。

去る十二月十四日の本会議において文教民生委員会に付託されました陳情第二号優生保護法改正に關する陳情書及び建設経済委員会に付託されました請願第五号大型店出店促進に關する請願書について、各委員長から會議規則第七十五条の規定により閉会中の継続審査とされたい旨の申し出がありました。

お諮りいたします。陳情第二号及び請願第五号を各委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査といたしますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

閉

会 午前十時四十分閉会

○議長（林 豊君） 以上で本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって、これにて第四回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第四十九号乃至議案第六十一号

二、継続審査について（陳情第二号、請願第五号）

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 林

豊

館山市議会議員 神

田 守 隆

館山市議会議員 安

西 益 男